では「ファッション」が創られ，それに敏感に反応する若者たちによって広められる(流行)．この2つの相互作用の繰り返しによって，次第に発展し，成長してきた．

◉政策科学（関西）◉

• **第1回**（第18回シンポジウムを第1回例会とする）

日時： 5月13日(水)　10:00～17:00　**場所：** 芦屋大学

出席者： 136名　**テーマと講師：** Ⅰ　1.ＤＳＳの展望　小島敏宏(和歌山大学)　2.在庫管理における階層多目的意思決定支援システム　野村淳二(松下電工㈱)　Ⅱ　1.地域計画とＤＳＳ　鈴木　胖(大阪大学)　2.兵庫県の地理情報システム　江口靖夫(兵庫県)　Ⅲ　1.人工知能の最近の進歩　矢田光治(㈱ＣＳＫ総合研究所)　2.人間の認知プロセス・モデルにもとづく意志決定支援と知識情報処理　椹木哲夫(京都大学)

◉意志決定(ＡＨＰ部会)◉

• **第1回**

日時： 5月26日　14:00～17:00

場所： (財)電力中央研究所　**出席者：** 25名

テーマと講師： 刀根　薫(埼玉大)

「企業体の効率分析手法ＤＥＡについて」

企業体の効率性を考える場合に，単に利益だけではなく，売上高，品揃え，社会的責任，公害などの多くの出力と，人件費，宣伝費，売り場面積など多様な入力を考える必要がある．「D効率分析手法」(Data Envelopment Analysis DEA)は，多入出，多出力系のシステムの相対的な効率判定を目的とした手法である．このＤＥＡとその応用について紹介された．

◉日本的システム科学◉

• **第26回**

日時： 5月9日(土)　14:00～17:00　**出席者：** 11名

場所： 八丁堀　東京都勤労福祉会館　第3洋室

テーマ：「日本の対外態勢」

発表者： 上田亀之助（上田イノベーション研究所）

日本の経済力等の発展にともない，諸外国との関わり合いがますますその密度を高めてまいりました．われわれはこれらによるインターフェースの問題解決に相当の力をさかねばならないが現状であります．そこで覚めた目で日本を見つめ，諸外国の諸事情を勘案するために，どのようなシステム科学をするかを考えてみました．

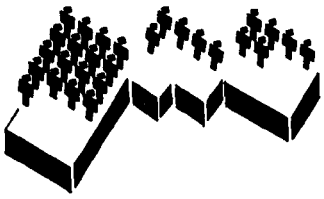
• **第27回**

日時： 6月6日(土)　14:00～17:00　**出席者：** 9名

場所： 八丁堀　東京都勤労福祉会館　第3洋室

テーマ：「情報を活かす経営戦略」

うまく行っているはずの日本も，このところ，むずかしい問題が次々と起ってきております．アメリカの社会・経済も財政赤字・貿易赤字・社会の退廃と，あまり好ましくない方向につき進んでおります．日本は相当真面目に問題解決に努力しておりますが，人間の善意だけで如何ともなし難い事象も起りつつあり，世界はこのまま進めば世界恐慌におちいる危険があります．さて，われわれ日本は何をどうしたらよいか．



会員近況

石川　真昭　九州芸術工科大学

防衛費がＧＮＰの1.04％の予算になったとして，従来の「1％枠を限度とする」という基準をどうするか問題になっている．都合よく決定しようとする政治家は「1％枠を限度とする」を「1％程度とする」に修正するだけでいいとうまいことをおっしゃっている．1％程度というのは，1.04％も1％程度であるし，また2％近い値でも1％程度と解釈される．このような「あいまいな」表現を定量的に表現できれば，はっきりとした見解も出るであろう．

Fuzzy 集合論は，このような「あいまいな」表現，事象を論理的(？)に処理することを目標にしている．日常経験する意思決定問題においても「あいまいな条件の下」で「あいまいな結論」を要求される場合が多い．このような問題に対して，Fuzzy集合論を基礎にした数理計画法，意思決定問題，情報処理……等の研究が発展すると思う．すでに国際Fuzzy学会（IFSA）も組織され，その第2回国際学会が今年7月京都で予定されている．筆者自身は，意思決定問題をFuzzy集合論で論ずることに興味をもち，研究中である．一般にＯＲ，数理計画法等，広くFuzzy集合論で研究している方も多いと思う．応用例等，豊富な経験をおもちの方，交流，ご教示をお

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

願いしたい.

田中　正夫　大阪大学　基礎工学部　機械工学科

有限要素法を中心とする計算力学手法での，空間的・時間的な離散化スキームの最適化についての仕事が，私にとって具体的な意味での最適化問題との出会いでした．それ以来，主として機械工学，特に力学・機構分野での最適化問題についての仕事をしてきました．この間変分法と動的計画法を使うことが多かったのですが，これら両者はどちらも，単なる問題解決のための道具としてだけではなく，問題の本質をとらえる視点を提供してくれていたように思います．

最近のテーマである，立体トラス形の高多自由度ロボットアームや，ワイヤを用いた3次元トランスポータの運動設計についても，このことに変りはないようです．現在，創造的な設計を行なう知的なシステムにも興味を持っており，新たな視点を探しているところです．

力学の分野でも，いたるところにOR的考え方や手法が適用でき，応用的な仕事をしておられる方も多いと思うのですが，学会誌，論文集や研究発表会で，この分野の話題に出本うことが稀なのが残念です．

利根川　孝一　名古屋商科大学　経営情報学科

最近，日本でもSLAMが新しいシミュレーション言語として，ようやく使われ始めています．日本への紹介が遅くなったのは，この分野にたずさわっていた私にも責任の一端があると思います．

SLAMの基本構造となっている，(1)Process型Event型の統合，(2)One Array Storage，(3)Dynamic Core Allocation，等の機能を含む最初の言語であるGNSを私が開発し，学会発表したのはもう15年も前の在米中のこと．SLAMは，機能もさらに充実され，refineされていますので，最もpowerfulな言語であると思います．しかし課題も多く残されています．事情があって，この関係から長く遠ざかっていましたが，最近やっと重い腰をあげました．新しい言語の開発を始めていますが，内容については，まだ企業秘密ということにしておきましょう．2年後位には，皆様のお手許に届けられるよう頑張ります．……と宣言すれば，少しは研究が進むのではと期待しています．原稿依頼(災？)を転じて研究促進に利用させていただいた次第です．

ところで，この言語を軸に，Production Planning & Schedulingソフトを作ることも考えています．特に企業内で関連の仕事をされている方々と研究会ができればなどと思っています．

会合記録

編集委員会（OR誌）	5月7日(木)	出席者12名
庶務幹事会	5月11日(月)	〃　7名
支部長会議	5月13日(水)	〃　14名
理事会	5月20日(水)	〃　19名

第1回理事会議題

(62.5.20)

1. 61年度評議員会議事録の件
2. 61年度第7回理事会議事録の件
3. 62年度通常総会議事録の件
4. 各委員会等からの報告
   (1) 支部長会議
   (2) 研究普及委員会春季研究発表会シンポジウム
   (3) 編集委員会
   (4) 国際委員会
   (5) 事務長選考委員会
5. 62年度委員・幹事委嘱の件
6. 入退会の件
7. 秋季研究発表会の件
8. 学術会議関連研連再登録の件
9. 今年度の運営方針の件
10. その他

入退会

入　会（正会員）

興村　吉美　(財)鉄道総合技術研究所
尾島　善一　東京理科大学
河東　岩夫　セイコー電子工業㈱
権藤　　宏　バブコック日立㈱
下川　信治　日本電信電話㈱
高松　雄二　㈱東芝
中澤恒一郎　山武ハネウエル㈱
松島　克守　日本IBM㈱
Ralph Disney　VIRGINIA POLYTECHNIC

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

INSTITUTE AND STATE UNIVERSITY

（学生会員）

磯野　孝　京都大学
馬屋原典子　東京理科大学
鴫谷あゆみ　東京工業大学
白井　潔　東京理科大学
瀬川　良之　京都大学
中出　康一　京都大学
堀内　孝　防衛大学校
八藤丸雄一　防衛大学校
森岡　務　京都大学

（賛助会員）

イズミヤ㈱
㈱住友銀行　事務管理部
日立電線㈱

退　会（正会員）

古川　長太
澤村　淑郎
鍋島　一郎

（賛助会員）

丸善石油㈱

移　動（学生→正）

池田　重吉　大阪大学→琉球大学
石津　雅浩　武蔵工業大学→ユニ・チャーム㈱
伊藤　大雄　京都大学→ＮＴＴ
乾口　雅弘　大阪府立大学→大阪府立大学
今田　順　筑波大学→東京電力㈱
阪井　節子　大阪大学→大阪大学
多井　剛　神戸商科大学→㈱神戸コンピュータサービス
竹俣　一也　金沢工業大学→金沢工業専門学校
村岡　徹　埼玉大学→埼玉県
横谷　哲也　東京理科大学→三菱電機㈱
吉田　靖　慶応義塾大学→東洋エンジニアリング㈱

編集後記▶本年度から編集委員長が交代されます．柳井委員長は個性豊かな人．編集委員会はいつも3時間と長かったけど，楽しい時間でした．各委員から自由な発想を出させる名人で，なおかつ委員長自ら，いくつもの仕事を買って出られるから，各委員も，この特集は自分が担当しなくては，という気にさせる名人でもありました▶“災害”や“雪”をＯＲの分野に取り込むなどは，この委員会では朝飯前．特集のテーマは，多い時には向う10カ月先までも在庫があるといった具合▶時間をかけて議論をしたのは，もっぱら本質論．議事の進行はテキパキと鮮かこの上無いけど，篇集方針や姿勢に関わる問題では，時間の経つのを忘れて議論▶一般に，どこの学会の委員会でも，奉仕の精神あるいは犠牲的精神で務めるので，精神的ストレスが溜るのが常．しかし，この委員会では何か目を開かれて，終って帰路につく頃は，なぜかすがすがしい気分で帰れるのでした▶柳井委員長と山田新委員長の受け継ぎの特集「交通」は，交通問題研究部会の方々に企画していただき誕生しました．交通は量だけでなく，質をも含む輸送システムだけに，ＯＲ的アプローチのむずかしい分野．小口輸送に着目して成功した「宅急便」はこれからのＯＲが手がけるべき問題を示唆しているようです．（Ｉ）

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年7月号　第32巻　第7号　通巻319号
代表者　吉山博吉
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
（電話　03-815-3351～2）〒113
編集人　柳井　浩
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ケ谷5—4—2　〒151

• 本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価 850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）
• 本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．